

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京大学	整理番号	J01
プログラム名称	統合物質科学リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	小関 敏彦	プログラム コーディネーター	川崎 雅司

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、物理学・化学・材料科学・電子工学分野において、俯瞰力と専門性の協奏的な涵養を目標に据えたリーダー養成のプログラムを構築しており、統合物質科学俯瞰講義や、異分野科目などのコースワーク、学生の自主性・自発性を尊重した自発融合研究・長期海外派遣・コロキウム等のトレーニングワークからなる教育が確実に進められていると評価できる。研究科・専攻との緊密な連携の下、学生の理解度・満足度・負担に配慮してカリキュラム、授業内容の改善に努めており、プログラムコーディネーターをはじめ担当教員の事業運営も順調である。こうした多彩で真摯な取組により学生は高いレベルで成長しており、当初の期待以上の成果が出てきている。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長および活躍の実現性については、産官学の優れたリーダーによる俯瞰講義・特別講義や企業現場で行うオンサイト講義・研修等のプログラム、及び海外派遣・企業インターンシップにより、深い専門性と広い視野・俯瞰力、行動力をもち、産官学の多様な分野で活躍するリーダーが育つことが大いに期待できる。さらに修了者の長期的な追跡調査の仕組みの構築が大学全体で既に検討されており、修了者の社会での活躍状況を把握することが期待できる。なお、企業インターンシップは異なる分野・セクターを経験できるものであるため、学生の自主性に任せるのではなく機会の充実化、及びインターンシップ参加者拡充に向けて更に積極的に取り組むことが望まれる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、分野の異なる副指導教員を含む複数指導教員制や、大学の豊富な人材を活用した特別講義の開講、コロキウムや多数のコースワークにおける英語の使用など、大学全体として共通理解を持ってプログラムを実施しており、評価できる。また、世界の主要大学と提携した海外派遣や、国際セミナーの開催など、国際的ネットワークの中で学生が主体的に学んでいることは評価できる。

優秀な学生の獲得については、十分に練られたアドミッションポリシーに基づき、工学系研究科、理学系研究科、新領域創成科学研究科の9専攻に所属する学生の中からその約6%の学生をコース生として受け入れており、他大学出身者も含め優秀な学生を得ている。留学生、女子学生の割合を増やすべく、積極的な受入れに努めていることが認められる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、Qualifying Examination(QE)とFinal Examination(FE)の制度を設けて、博士に相応しい専門性・独創性と高度な研

究能力、および博士に相応しい学術的見識・広い視野・国際力とコミュニケーション能力という観点から審査を行っており、高水準の学位を保証するシステムが構築されていると判断できる。

事業の定着・発展については、「プログラムコーディネーター会議」を設置し、大学全体としてプログラム間の連携、大学院教育改革の共通理解等に取り組んでいる。修士博士一貫コースや恒常的な学生支援システム等が検討されており、本プログラムの優れたカリキュラムや教育の仕組み・特徴を生かした学位プログラムを継続・発展させるよう、具体的に検討されることを期待する。